

「第3回アドバイザー会議」における補足説明(再質疑)

調書番号:2事業名:その他事業費(環境情報センター費)

○補足説明

説明者職・氏名	説明内容
課長 井上泰子	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回アドバイザー会議において、小澤アドバイザーから「富士山学習支援図書セットの中に富士山信仰に関する書籍が含まれているか」という御照会をいただいたので、その件について説明させていただきます。 ・現在「富士山学習支援図書セット」は数十冊をセットにさせていただいているが、その中には、例えば「富士山大事典」「富士山の火祭り」「富士講」といったタイトルで、お子さんたちにも分かりやすい内容の富士山の信仰等に関する内容が含まれた図書も含まれている。 ・富士山は古くから信仰・崇拝の対象として様々な習慣や伝統・祭事が現代にも引き継がれている。このような歴史を、小さいうちから理解・学習していただくためにも、引き続き情報提供に努めてまいりたいと考えている。

○再質疑

アドバイザー	質問内容	回答者職・氏名	回答内容
小口アドバイザー 小澤アドバイザー 村上アドバイザー	なし		

「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号:2事業名:その他事業費(環境情報センター費)

アドバイザー	評価区分	評価内容
小澤アドバイザー	「要改善」	<ul style="list-style-type: none"> ・富士山及び環境に関する情報は、地元の方々のみならず、他県の方々へも、火山防災等に関する情報と合わせ、昨今大事なテーマとなっている中で、最近センターの利用者数が減少傾向にある。アンケート等を積極的に実施しニーズ等の把握を行い、新規利用者の拡大に努めていく必要があるのではないかと。 ・また、新資料購入、随時刊行物の購入、更なる学べる図書及び映像資料も増やし、自由に利用が適えられるようなシステムが必要ではないかと。
村上アドバイザー	「要改善」	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が1日平均10～15人で23,000冊余の本が開かれずに終わってしまうのではもったいない。利用者対策が必要ではないかと。 ・場所やその交通機関の都合からただ待っている、という状況にも感じる。「富士山学習支援図書セット」なども、もっとこちらから県内の学校へ直接出向いてアピールしていけないかと思う。 ・また、実際に富士山科学研究所に足を運んでもらう対策も必要だと思うが、資料でいただいた茨城県霞ヶ浦環境科学センターの状況を見てみると、図書所蔵部数に比較してその利用者数が山梨県の3倍近いので、是非参考にして環境や富士山のイベント等で利用者を増やしてほしい。 ・また、地域や地元県民向け、観光客や研究目的である方々それぞれに区別して利用者対策を考えていただきたい。
小口アドバイザー	「要改善」	<ul style="list-style-type: none"> ・富士山関連の蔵書は年々充実していると思われ、昨年富士山サイエンスラボも開設したということで環境情報センターの魅力が更に増していると思われるが、残念ながら利用者はまだ少ないというのが現状である。もう一度環境情報センターの魅力を確認して、待っているのではなく、環境情報センターから情報発信を強化して利用者の増加を図ってほしい。

アドバイザー	評価区分	評価内容
		<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に3つ申し上げる。1点目は、もう一度センターの魅力や利用者のニーズを把握していただきたい。第2回アドバイザー会議においてもお話したが、当センターの蔵書と山梨県立図書館との蔵書の比較によって、当センターにしかないものがあるか確認するといったことや、実際にセンターに来ている人に、来館の目的や理由、何が良かったかということ聞くことで、センターの魅力というものが見えてくると思う。こうしたものを生かしてPR強化に努めていただきたい。 ・2点目は、「富士山学習支援図書セット」、これは非常に良い取組だと思うので一段と促進していただきたい。立地を考えると中々来てもらって本を読んでもらうというのは難しいことだと思うので、「富士山学習支援図書セット」を実際に利用していただいている人の意見を聞きながら、これからどこをターゲットにするか、これも待っているのではなくて、学校を決めて計画的にPRに出向くことによって、この利用の促進を図っていただきたい。 ・3点目は、もう一度企画の充実と工夫をしてほしい。色々な企画をされているが、読書やサイエンスラボ、自然体験、こういったものの組み合わせもあるし、富士山世界遺産センターの教育旅行との連携ということも考えられる方法ではないかと思う。もう一度、人に来ていただく工夫ということについて考えていただきたい。